

FAQ

質問

個人での応募は可能ですか？

回答

できません。応募要件にあるとおり、応募資格があるのは、「学校長が推薦する教員」もしくは「教育委員長が推薦する教員経験のある職員」になります。

質問

特別支援学校の教員も対象ですか？

回答

対象です。

質問

幼稚園・大学の教員も対象ですか？

回答

いいえ。対象となるのは、国内の小・中・高の現職教員もしくは指導主事等の教育に係る教育委員会職員であるため、大学教員は対象外です。幼稚園も日本では初等・中等学校に含まれないため、応募することはできません。

質問

教員ですが、現在大学院に在籍しています。応募できますか？

回答

大学院在籍中の方は現職教員とはいえませんので、応募は御遠慮下さい。

質問

教育委員会を通して応募する必要がありますか？

回答

主催者の意向により「学校」単位の応募となっています。が、公立学校の教員は出張手続きなどがあるので教育委員会に事前に連絡されることをお勧めします。

質問

教育委員会・大学として、申請を取りまとめる必要がありますか？また、とりまとめて送付した場合、結果はどこに送られますか？

回答

学校長からの申請が基本ですので、取りまとめる必要はありません。ただ機関として応募状況を知っておきたいということであれば取りまとめた上で送付してください。結果は各学校への通知が基本ですが、機関として結果通知を希望する場合は、各機関の送付状を鑑としてつけていただければ、連絡をします。

質問

教育委員会からの学校の推薦は優先してもらえますか？

回答

教育委員会の推薦がついていることで優先されるというわけではありません。

質問

県下の教育委員会と職員の数が多い場合、各支部から2名ずつ応募することができるのでしょうか？それとも県全体として2名までなのでしょうか？

回答

学校からの申請と同様、県教育委員会からも推薦者は2名までです。県全体としての定員は設けておらず、県下のそれぞれの教育委員会から各2名ずつ応募できます。

質問

学校がESDを実践していないと応募できませんか？

回答

ESDということばにこだわる必要はありません。ESDといわれていなくても、たとえば環境教育であったり、国際理解教育などという形でESDに含まれることを実践していれば応募資格はあります。

質問

応募に際しユネスコスクールへの加盟は必須でしょうか？

回答

必須ではありません。

FAQ

質問

ESDを地域とともに実践していたり、ESD関係の組織と関わっている必要はありますか？

回答

特に必要ではありません。連携していなくても個別のさまざまな活動を行っていたり、今後の実践を予定している学校も応募資格はあります。

質問

選考はどのような方法で行われますか？

回答

提出された申請用紙をもとに書類選考を行います。面接はありません。

質問

自費での参加はできますか？

回答

できません。

質問

選考後、海外出張の許可が得られない場合、休暇をとって個人で参加する事はできますか？

回答

できません。

質問

選考後異動があった場合には参加資格はどうなりますか？

回答

「学校長が推薦した現職教員」という条件なので、異動でその組合せがなくなった場合、学校側にも教員側にも参加資格は残りません。

質問

選考後、不参加者が出た場合は、参加者の人数は変わるのですか？

回答

変更はありません。選考過程で補欠候補を決めておき、不参加がでた場合には補欠が繰り上がります。ただし直前のキャンセルで補欠の渡航準備が間に合わない場合はこの限りではありません。

質問

プログラム参加者の義務として報告書の提出とありますが、これは継続的なものなのでしょうか？

回答

長期にわたるわけではありませんが、派遣後、合同会議後の2回に分けて報告の提出を予定しています。

質問

参加者は7月の合同会議には必ず出席しなければなりませんか？

回答

はい。米国への派遣及び東京での合同会議の全日程に参加できることが応募の要件です。

質問

米国ではどのようなところを訪問しますか？

回答

小学校、中学校、高等学校のほか、大学や、文化施設、環境教育を行っている機関など、訪問受け入れ地の特性に合わせて現地実施団体が選んだところを訪問します。

質問

ワシントンDCの後、地方都市へ行くとなりましたが、訪問する都市はいつ決まりますか？

回答

選考決定通知と共にお知らせします。

質問

前回の参加者との情報交換の機会はありますか？

回答

あります。参加者は米国へ出発するまでの期間、前回の日本及び米国の参加者たちが集うインターネット上でのフォーラムなどを介し、これまでの情報を共有し、訪問のための準備をします。また、合同会議などでは前年度の参加者にも参加してもらい、情報交換をはかる予定です。